

取扱説明書

播種機

HK509BM



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

播種機 HK509BM をお買い上げいただき、
ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、播種機 HK509BM の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。
- お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合、速やかに当社にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただきましたお店、またはお近くの特約店・販売店・J Aにご相談ください。
-  印付きの下記マークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。



警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性がある物を示します。



注意

その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業をするために」を記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

目 次

1. 安全に作業をするために	3～6
2. 安全銘板の貼り付け位置	7
3. 本製品の使用目的について	7
4. 各部の名称	8
5. 仕 様	9
6. 組立要領	10～14
7. 各部の調整	15～22
8. 運転及び操作	23～26
9. 土入れ作業	27
10. 点検・整備及び保管上の注意	28～29
11. 故障の診断と処置	29～32
12. 播種モーターの異常とその対策	33～35
13. 簡易目安表	36

1. 安全に作業をするために

ここに記載されている注意事項を守らないと、
死亡を含む障害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。



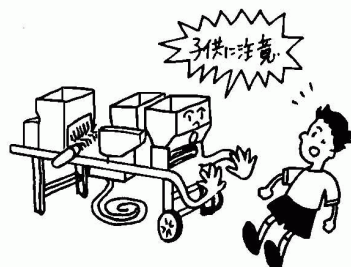
警告

子供を近づけない

子供には充分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

障害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

電機部品・コードを必ず点検する

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや
接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故を起こすおそれがあります。



警告

濡れた手で差込みプラグを差込んだり抜いたりしない

【守らないと】

感電事故のおそれがあります。



警告

2人以上で作業をする時は、 お互いに合図しながら機械を始動する

【守らないと】

思わぬ事故になることがあります。





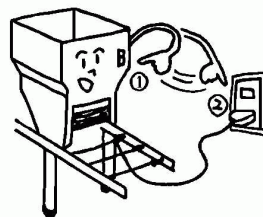
警告

点検・整備時には必ず電源を「OFF」にし、差込みプラグを抜く

点検・整備は、必ず電源スイッチを「OFF」にし、差込みプラグを抜いてから行ってください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



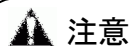
注意

使用前に取扱説明書を必ず読む

使用前に取扱説明書をよく読んで、安全で正しい作業をしてください。

【守らないと】

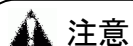
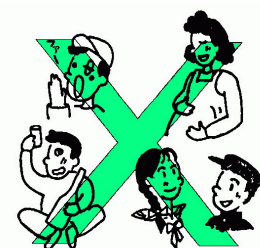
傷害事故や機械の破損を引き起こします。



注意

こんな時は作業しない

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。



注意

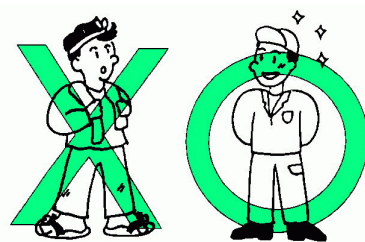
作業に適した服装をする

はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。

作業に適した、だぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたりするおそれがあります。



注意

点検・整備を行う

機械を使用する前と後には必ず点検・整備をしてください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。





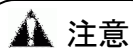
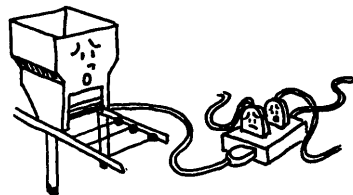
注意

電源は単相交流 100V 専用コンセントに接続する

また、タコ足配線はおやめください。

【守らないと】

火災事故の原因となります。

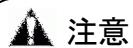


注意

作業中停電した場合は、必ず電源スイッチ
を切る

【守らないと】

通電時、急にまわりだし、思わぬ傷害事故を起こします。

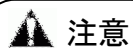


注意

作業を中断・終了した場合は、
必ず電源を「OFF」にする

【守らないと】

ショートして、火災の原因になることがあります。



注意

カバー類は必ず取付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取付けて
ください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



注意

機械を他人に貸す時は、取扱い方法を
説明する

取扱い方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず
読むように指導してください。

【守らないと】

傷害事故や、機械の破損をまねくおそれがあります。





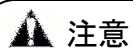
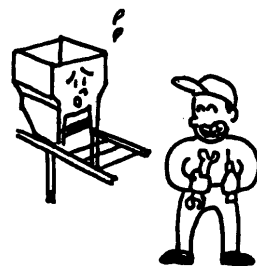
注意

機械の改造をしない

純正部品や指定以外のアタッチメントを取付けないでください。
また、改造はしないでください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



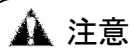
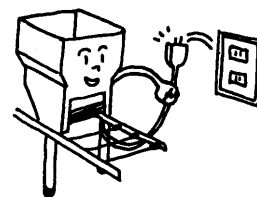
注意

後始末を忘れずにする

長時間使用しない時は、差込みプラグをコンセントから
抜いてください。

【守らないと】

火災事故や、感電故障をまねくおそれがあります。



注意

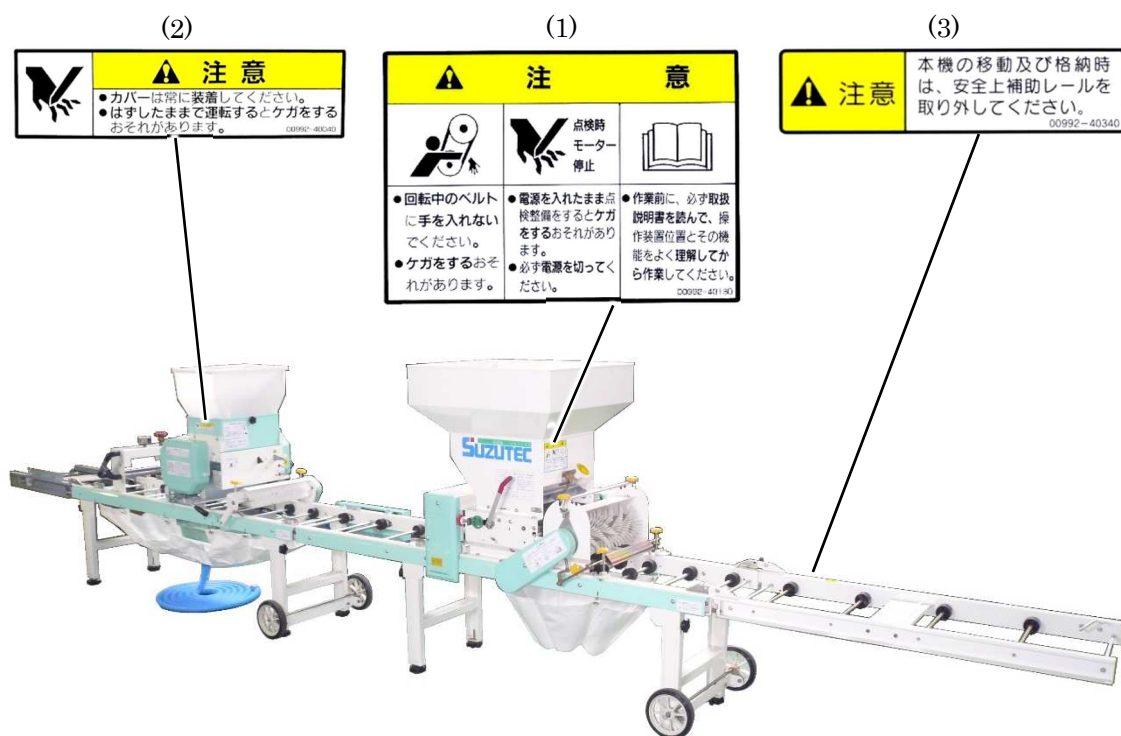
電機部品には絶対に水をかけない

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

2. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業をしていただくために安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しい物に貼り直してください。



紛失または破損された場合には、当社へ下記の表を参考にご注文ください。

No	部品番号	部品名称
(1)	00992-40130	注意ラベル CL-10
(2)	00992-40040	注意ラベル CL-3
(3)	00992-40340	注意ラベル CL-20

3. 本製品の使用目的について

本製品は、育苗箱への土入れ・播種・覆土の作業機としてご使用ください。
目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

4. 各部の名称

○播種部



○土入れ部



5. 仕 様

型 式		HK509BM
機 体 寸 法	全 長 (格納時)	5,000mm (2 分割 播種部：1,680mm, 土入れ部：1,840mm)
	全 幅	520mm
	全 高	1,110mm
重 量		98kg
動 力	搬 送	60W／100V
	播 種	30W (DC ブラシレスモーター)
ホッパー容量	播 種	28ℓ
	覆 土	72ℓ
灌 水 量		0.7～1.5ℓ/箱
播種量の調節		播種ローラーの回転数を無段階に可変
播種量(催芽)		90～385g／箱 (135～580ml／箱)
床 土 量		2.4～4.0ℓ／箱 (15～25mm 厚)
覆 土 量		0.7～1.5ℓ／箱 (3～9mm 厚)
土均し方法		回転ブラシ
能 力 (50Hz,60Hz)		420・500 箱／時

★本製品は 50Hz 地区, 搬送能力 500 箱/時に組付けてあります。60Hz 地区でご使用の場合はスプロケットを交換してください。搬送能力 420 箱/時でご使用の場合はスプロケットを交換し、同梱の播種量換算ラベルと灌水ラベルを空いているところに貼ってご使用ください。



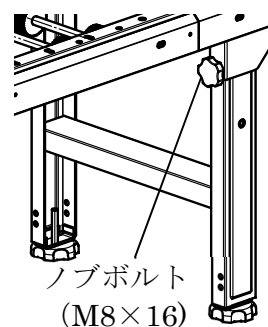
ここのスプロケットを交換してください。

	駆動 スプロケット	従動 スプロケット	ローラー チェーン	播種量換算ラベル 灌水ラベル
50Hz 500 箱/時	11T	12T	34L	出荷時貼付け済み
50Hz 420 箱/時	11T	14T	36L	同梱のラベルを使用
60Hz 500 箱/時	11T	14T	36L	出荷時貼付け済み
60Hz 420 箱/時	11T	17T	36L	同梱のラベルを使用

6. 組立要領

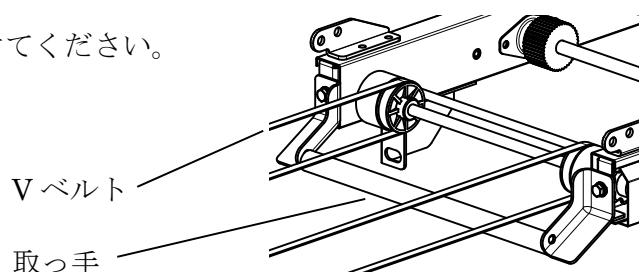
6.1 脚の組立

折りたたまれている脚を立てて、ノブボルト（M8×16）でしっかりと固定してください。



6.2 取っ手の組立

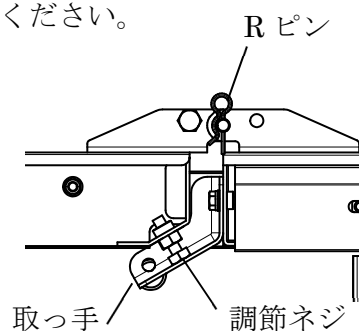
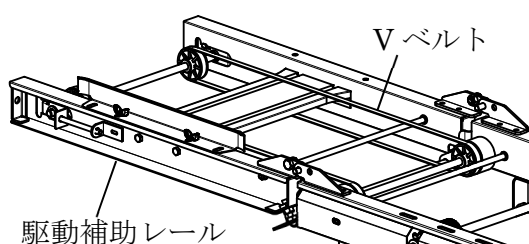
取っ手を右図のように組付けてください。



6.3 駆動補助レールの組立

取っ手が付いている方に駆動補助レールを組付けます。

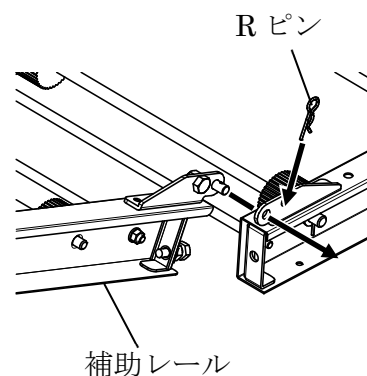
- (1) V ベルトをプーリーに掛けて組付け、R ピンで抜けないように固定してください。
- (2) 調節ネジで駆動補助レールの水平を調節してください。



6.4 補助レールの組立

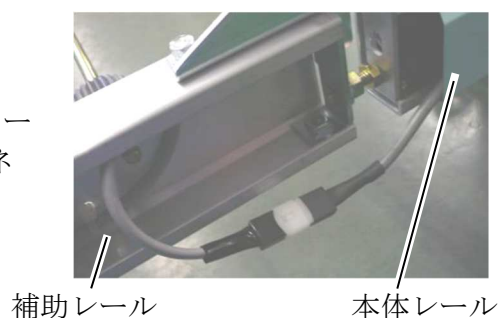
補助レールを連結し、R ピンで抜けないように固定してください。

なお、本機を移動する時は、安全上補助レールを外してください。



6.5 センサーコネクタの接続

補助レール先端にあるセンサーから出ているコードと、本体レール終端から出ているコードのコネクタを接続してください。



6.6 播種レールと土入れレールの連結

(1) レール同士の連結

バネ平組込六角ボルト(M8×20)で播種レールと土入れレールを連結させてください。



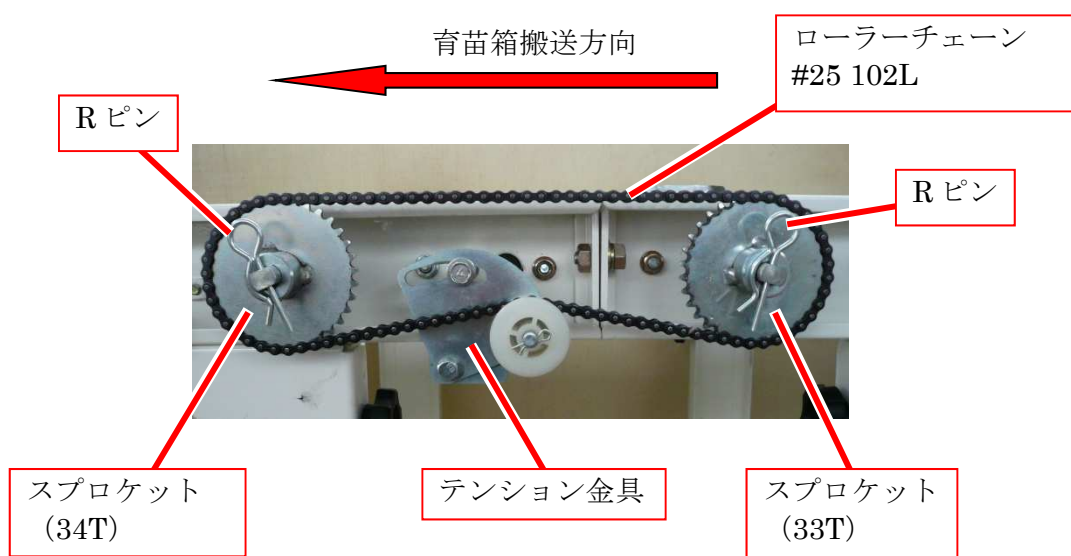
六角ナット(M8)

バネ平組込六角ボルト(M8×20)

(2) スプロケットとチェーンの組付け

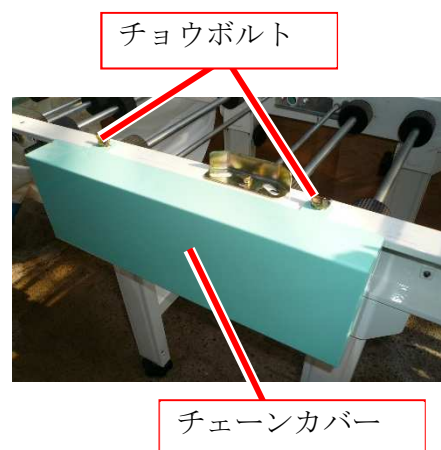
下写真のようにスプロケットとローラーチェーンを組付け、テンション金具でローラーチェーンのテンションを張ってください。

(注意) 33T スプロケットは必ず播種レール側に組付けてください。スプロケットを逆に組付けますと、搬送中の育苗箱同士の間にスキマができてしまいます。



(3) カバーの組付け

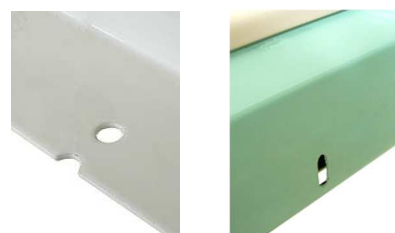
危険防止のため、必ずチェーンカバーを
チョウボルトで組付けてください。



6.7 シート用 S 字フックの組立

水受けシートを引っ掛けるための S 字フックを
レール部に組付けます。

レールカバーがない方はレールの穴と切り欠きが
ある所に、レールカバーがある方はレールカバー
の長穴に引っ掛けます。



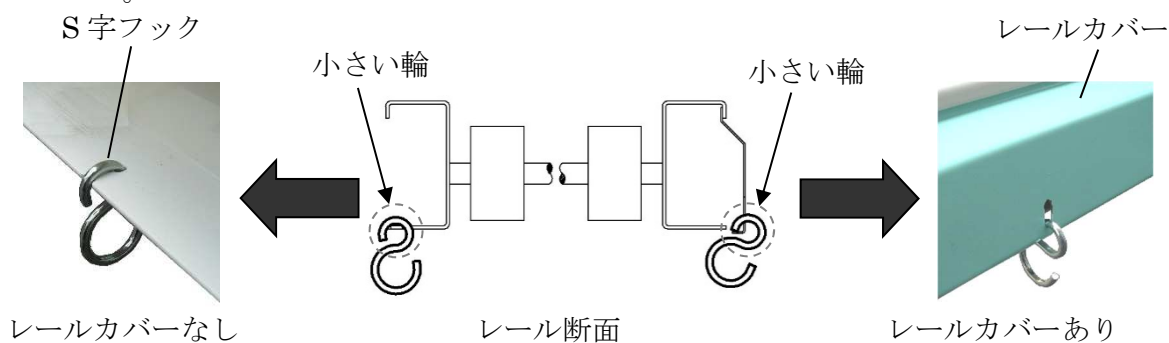
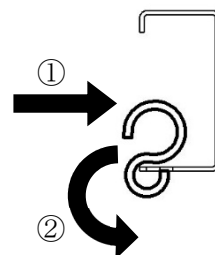
レールカバー なし

あり

S 字フックは小さい輪の方をレール部に引っ掛け
てください。

レールカバーがない方は、外れ防止のため下記
の手順で組付けてください。

- ① S 字フックの大きい輪を上にして右図のよう
に小さい輪をレールの穴に差込みます。
- ② S 字フックをひっくり返して穴に通してくださ
い。



6.8 土受けシートの組立

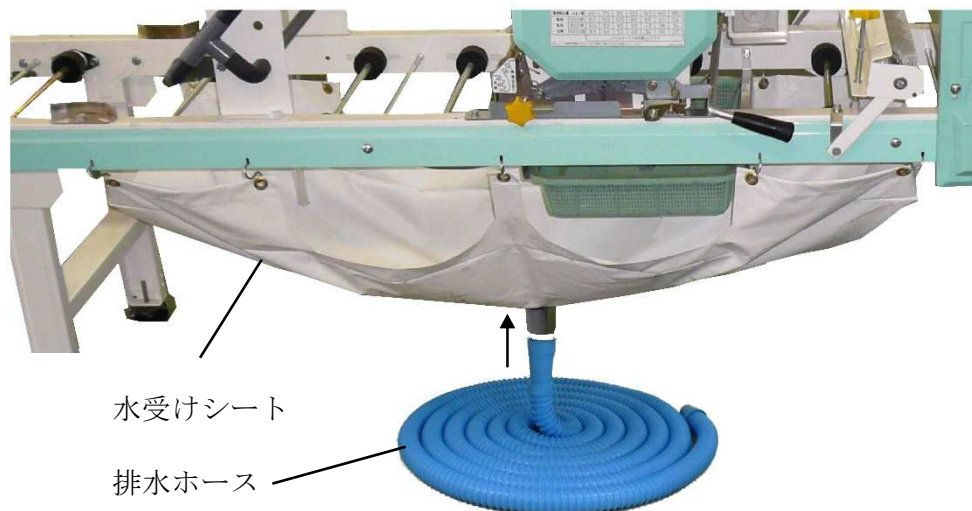
土入れホッパーの下に組付けます。

土受けシートにある穴を S 字フックに引っ掛け
てください。土受けシートに矢印がついておりま
すので、育苗箱の進行方向に合わせてください。
(取付け場所は「4.各部の名称」を参照ください)



6.9 水受けシートの組立

- (1) 水受けシートをS字フックに引っ掛けてください。水受けシートに矢印がついておりますので、育苗箱の進行方向に合わせてください。
- (2) 排水ホースを取付けてください。



6.10 糞受けカゴの組立

播種ホッパーの下側に糞受けカゴを差込んでください。

糞受けカゴ



6.11 タネウケの組立

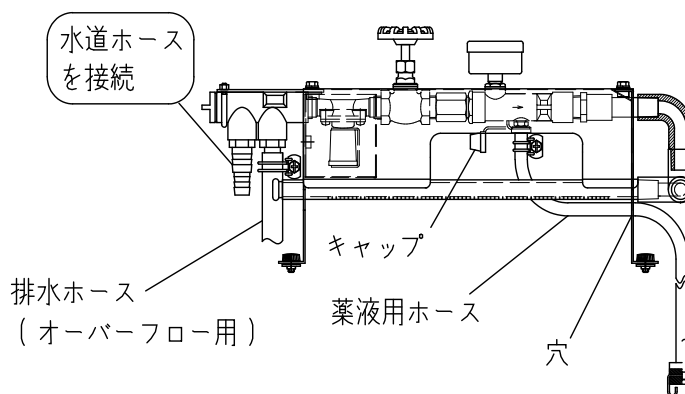
タネウケを写真のように組付けてください。

タネウケ



6.12 ホースの接続

- (1) 図の左側のノズルに水道からのビニールホースを接続してください。
- (2) オーバーフローした水は、図の右側のホースノズルから出てくるので、ビニールホース（500mm）を接続して水受けの中へ入れてください。



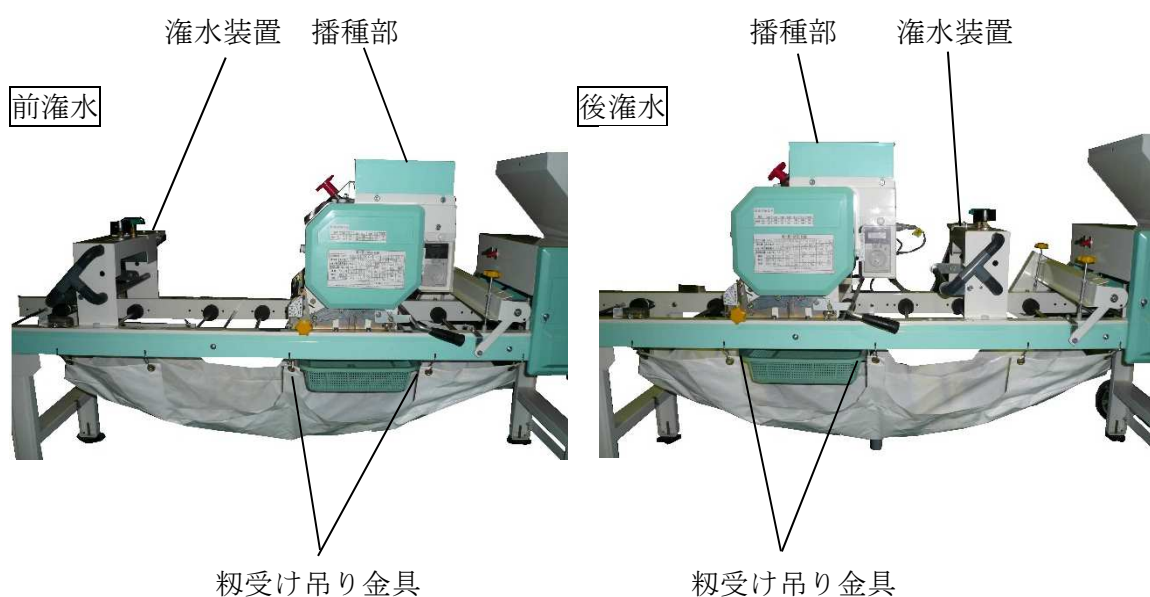
- (3) 薬液灌水を行う場合は、キャップを外し、薬液用のホース（φ9）を接続してください。その際、サイド板の穴に通すようにしてください。
- (4) 薬液灌水を行わない場合は、必ずキャップをしてください。

6.13 補助ホッパーの組立

土入れ部に大きい方の補助ホッパーを挿入してください、播種部には小さい方の補助ホッパーを挿入し、付属のネジとノブナットで固定してください。
(取付け場所は「4.各部の名称」を参照ください)

6.14 後灌水への組換え

- (1) 灌水装置を外してください。
- (2) 播種部、糞受け吊り金具を手前に組換えます。播種部は7×14の長穴、糞受け吊り金具はキャップの付いているφ7の穴に組付けてください。
- (3) 灌水装置を図の位置に組付けてください。



7. 各部の調整



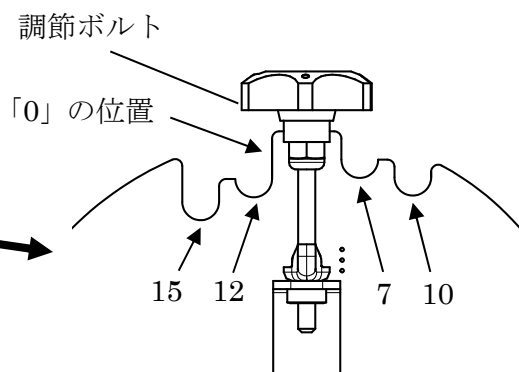
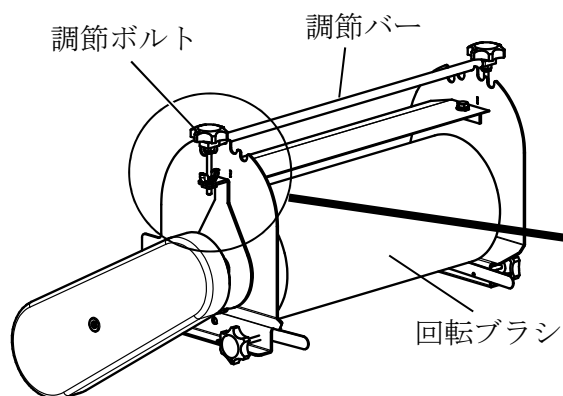
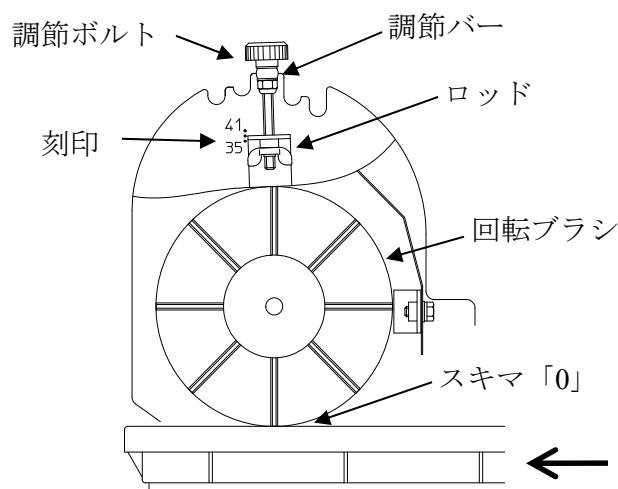
警告

調節はメインスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。回転部に巻き込まれるなど、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

7.1 回転ブラシの調節

育苗箱の種類によって箱の高さが異なります。ご使用になる箱に合わせてください。

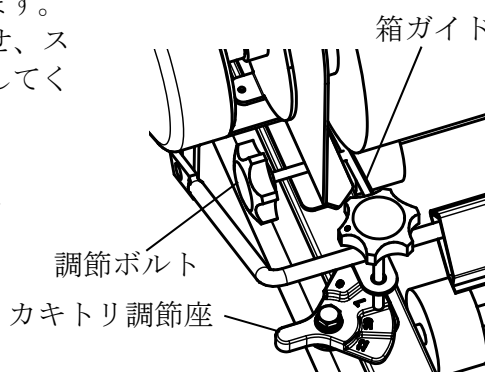
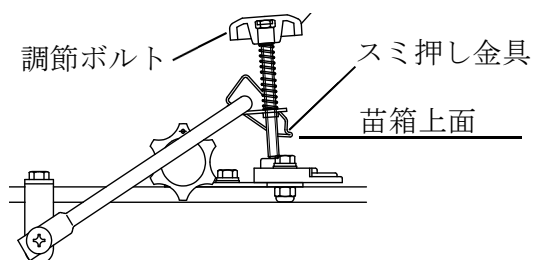
- (1) 調節バーが回転ブラシスタンドの「0」の位置にあることを確認してください。
- (2) 育苗箱の上面と回転ブラシのスキマが「0」になるように調節ボルトで合わせてください。
側板の刻印(35,41)の三つの点は育苗箱の高さを表しています。三つの間隔は3mmです。刻印を目安にロット上面を合わせてください。なお、出荷時は中央の点(育苗箱高さ38mm)に合わせてあります。
- (3) 調節バーを移動してお好みのカキトリ量に合わせてください。



7.2 スミ取り装置（前）の調節

育苗箱の前側の隅を取る装置です。箱の種類によって高さが異なります。ご使用する育苗箱に合わせてください。

- (1) 高さ調節金具の一番高い所にスミ押し金具の調節ボルトが乗っていることを確認してください。
- (2) 育苗箱の上面とスミ押し金具の先端のスキマが「0」になるように調節ボルトで合わせてください。
- (3) カキトリ調節座を回すと「7mm」、「10mm」、「12mm」かきとりにセットされ、解除すると「15mm」かきとりになります。
- (4) 箱ガイドを調節ボルトで育苗箱に合わせ、スミ押し金具が箱の中に入るように調節してください。



7.3 コンベアベルトの張り

コンベアベルトが緩みスリップするような場合は、ベルト張り金具の六角ナットを緩めて、赤いノブナットで片側約 6kg くらいに左右同じように張ってください。

(注意) 張り過ぎに注意してください。

コンベアベルト



7.4 床土・覆土量の調節

- (1) 土入れ量の調節は土入れホッパー正面についている調節ハンドルにて調節してください。ハンドルを「増」の方（右）に回すと、土の量が多くなり、「減」の方（左）に回すと少なくなります。
- (2) 覆土は粘質な土を避け、乾いた土を使って種もみがかくれる程度に行ってください。



7.5 反射板の調節

反射板で落ちる土の幅を調節できます。六角ボルトを緩めて、ガイドの角度を調節してください。

ガイド板

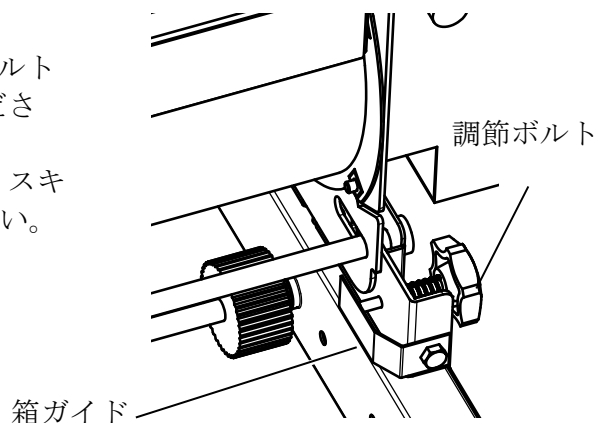
六角ボルト



7.6 箱ガイドの調節

播種部に付いている箱ガイドは、調節ボルトで育苗箱が中心にくるように調節してください。

(注意) 育苗箱が引っ掛からないように、スキマ (3~5mm) を持たせてください。



7.7 播種部の高さ調節

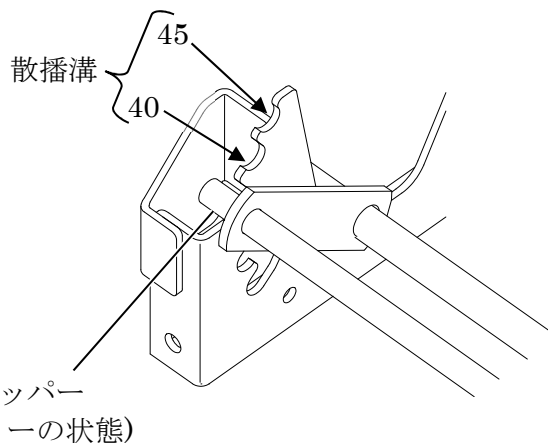
育苗箱の高さに応じてホッパーの高さを 35、40、45mm の 3 段階に調節することができます。

(注意) 育苗箱の高さに対して必要以上高くすると、播種精度に影響します。箱に合わせた調節をしてください。



< 散播 >

- (1) レバーを動かしてストッパーの高さを調節してください。
- (2) ストッパーがフリーの状態は 35mm になります。さらに高い育苗箱をご使用になる場合は、散播溝の 40、45 にストッパーをセットしてください。



7.8 播種量の調節

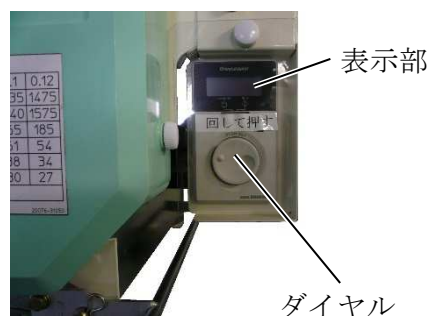
(1) 播種量の調節は播種部右側にあるダイヤルで行います。トウメイカバーをずらしてダイヤルを回してください。

(2) 表示部の数字が播種量モーターの回転数になります。下表を参考に調節してください。

(注意) 種もみの品種、催芽、水切りの状態によって播種量は異なります。必ず実測してからご使用ください。

(参考) $1 \text{ 合} = 180 \text{ ml} \div 120 \text{ g (催芽)}$

乾粃 $\text{g} \div \text{催芽 g} \div 1.25$



<能力 500 箱/時>

表示	7.00	8.00	10.00	12.00	14.00	16.00	18.00	20.00	22.00
催芽 g	—	90	120	140	165	185	205	225	245
催芽 ml	—	135	180	210	250	280	305	335	365

表示	24.00	26.00	28.00	30.00	32.00	34.00	36.00	38.00	40.00
催芽 g	260	280	300	315	335	350	370	385	(405)
催芽 ml	390	420	450	475	500	525	555	580	(605)

<能力 420 箱/時>

表示	7.00	8.00	10.00	12.00	14.00	16.00	18.00	20.00	22.00
催芽 g	95	105	140	165	195	215	240	265	290
催芽 ml	140	160	210	250	295	320	360	400	435

表示	24.00	26.00	28.00	30.00	32.00	34.00	36.00	38.00	40.00
催芽 g	305	330	350	370	395	(410)	(435)	—	—
催芽 ml	460	495	525	555	590	(615)	(655)	—	—

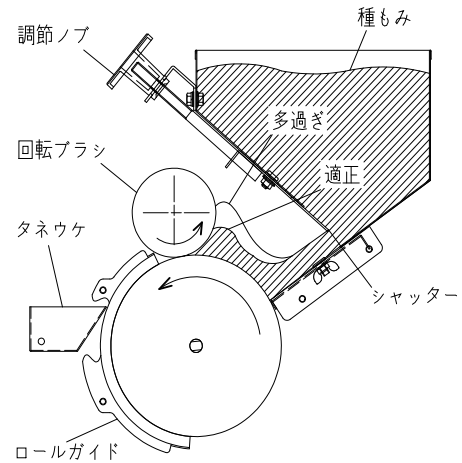
(3) 播種量を調節し終わりましたら、ダイヤルを押してください。ダイヤルを押さないと、電源が切れたときに調節前の状態に戻ってしまいます。

(注意) 表示部はダイヤル以外決して操作しないでください。モーターが不具合を起こす可能性があります。

7.9 仕切板の調節

種もみの品種及び乾燥状態により、種もみの流れ方が変化します。回転ブラシ手前に種もみが少ない時は、調節ノブを回しシャッターを若干上げてスキマを広くし、また多い場合には下げてください。

種もみが少ないと播種量が不安定になり、多過ぎると持ち帰りが多くなりタネウケがすぐにいっぱいになります。



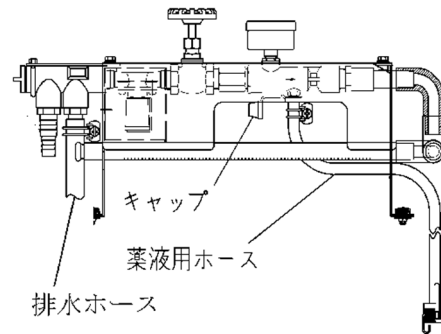
7.10 灌水量の調節

灌水量は床土の種類や乾燥状態によって異なります。灌水量の調節が充分になされず、湿害や灌水不足を起こし、出芽や生育に支障をきたすことがないように特に次のことに注意してください。

(1) 灌水量の調節方法

- ① 播種機の電源を入れ、メインスイッチと灌水スイッチを「ON」にしてください。
- ② 水道のコックを開き、灌水装置のバルブを回して、使用する灌水量に対応する水压にしてください。薬剤灌水する場合は、薬液ホースの先を水の入ったバケツ等につけて調節してください。

※ 排水ホースから余計な水が排出されないと、水道の元圧が変動したときに安定した灌水量になりません。(水道のコックの開き具合は、灌水装置のバルブを全開にしたとき、使用する水压の2～3割増しになる位がいいでしょう。但し、水道の元圧の変動が大きい場合はコックを全開で使用してください)



(2) 灌水量の決め方

- ① 床土の水分状態
乾燥している土は多く灌水し、湿った土は少なく灌水します。必要以上に灌水すると湿害を生じます。逆に灌水不足だと種もみの根上がり現象が起こります。
- ② 水の浸透具合の確認タイミング
育苗箱を1箱通し、床土入れ、均平、灌水して3分位たって水分がやや落ち着いてから水の浸透状態を確認してください。
- ③ 箱の種類
木箱の場合は、箱自体が水分を吸収するので灌水量をやや多目にします。又、プラスチック箱は、水分が逃げにくいのでやや少な目にします。

(3) 真水灌水する場合

<能力 500 箱/時>

圧力計目盛り MPa	0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.1	0.12
真水灌水量 ml/箱	607	734	853	1045	1183	1253	1321

<能力 420 箱/時>

圧力計目盛り MPa	0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.1	0.12
真水灌水量 ml/箱	716	866	1006	1233	1396	1479	1559

(4) 薬剤灌水をする場合（ダコニール、ダコレート）

この灌水装置は「リゾープス菌」による苗立枯病の発生防止に使用するもので、灌水と同時に薬剤散布ができるようになっています。

<能力 500 箱/時>

圧力計目盛り MPa		0.02	0.03	0.04	*0.06	0.08	0.1	0.12
薬剤灌水量 ml/箱		636	758	880	1079	1246	1402	1519
薬剤吸込量 ml/箱		65	90	108	*142	167	191	225
薬 剤 散 布 倍 率	500 倍	153	112	93	71	60	52	44
	800 倍	96	70	58	*44	38	33	28
	1000 倍	77	56	46	35	30	26	22
水 10ℓ 当たりの薬剤量 (ml) を示す								

<能力 420 箱/時>

圧力計目盛り MPa		0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.1	0.12
薬剤灌水量 ml/箱		750	894	1039	1273	1470	1654	1792
薬剤吸込量 ml/箱		77	106	127	167	197	225	265
薬 剤 散 布 倍 率	500 倍	130	95	79	60	51	44	38
	800 倍	81	59	49	37	32	28	24
	1000 倍	65	47	39	30	25	22	19
水 10ℓ 当たりの薬剤量 (ml) を示す								

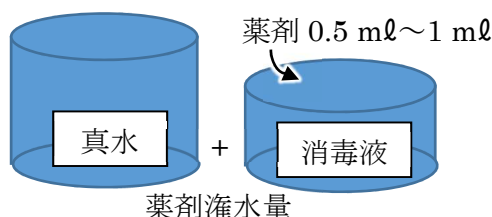
★ 薬液消毒の防除基準は、一般に 500～1000 倍液を 1 箱当たり 500ml 散布(1～0.5g)となっています。

(500 倍液では、1 箱当たり $500\text{ml} \div 500 \text{ 倍} = 1\text{ml} = 1\text{g}$ の薬剤が溶けた消毒液を散布となります)

<各地域の育苗指針、農業改良普及員の指導、薬剤の説明書などに従ってください>

★ 薬剤灌水量には、薬剤吸込量(消毒液量)と水道からの真水が混ざっています。

(灌水装置に水道からの真水が流れると、薬液タンクから消毒液がつかられて灌水装置に流れ込み、灌水装置内で混ざります。)



● 計算方法①

(例) 播種箱数 100 箱、灌水量が 1039ml、1000 倍のダコニール消毒液を散布

① 1 箱当たりの薬剤吸込量は 127ml です。1000 倍で散布する場合、表を参照して水 10ℓ あたり薬剤 39ml の割合で調合してください。

② 必要な消毒液量は、薬剤吸込量×播種箱数です。

$127\text{ml} \times 100 \text{ 箱} = 12700\text{ml} = 12.7\ell$ の消毒液を準備するには、

$$\text{必要薬剤量 (ml)} = \frac{\text{必要消毒液量 (ℓ)}}{10\ell} \times 10\ell \text{ 当りの薬剤量 (ml)}$$

$$\frac{12.7\ell}{10\ell} \times 39\text{ml} \div 50\text{ml} \text{ の薬剤を水に調合して作製します。}$$

● 計算方法②

(例) 播種箱数 100 箱、灌水量が 1039ml、1000 倍のダコニール消毒液を散布

① 薬剤量の計算

1 箱当たりの消毒液は 1000 倍液で 500ml 散布ですので原液(1 倍液)では
 $500 \text{ ml} \div 1000 \text{ 倍} = 0.5 \text{ ml}$

になります。100 箱では

$100 \text{ 箱} \times 0.5 \text{ ml} = 50 \text{ ml}$ の原液が必要になります。

$$\text{必要薬剤量 (ml)} = \frac{\text{防除基準 500 (ml)}}{\text{希釈率}} \times \text{播種箱数}$$

② 消毒液量の計算

1 箱当りの薬剤吸込量 140ml で、100 箱分ですので

$127 \text{ ml} \times 100 \text{ 箱} = 12700 \text{ ml} = 12.7 \text{ l}$

の水を準備します。

水量 (ml) = 薬剤吸込量 (ml) × 播種箱数

この水 12.7l に薬剤 50ml を調合したものが消毒液となります。

<手順>

① 薬液タンクは地上より 10cm 位
 上げてください。

② 灌水バルブを回して、お好みの
 薬剤灌水量になるように水圧を
 合わせてください。(数値は
 「(4) の表」を参照ください)

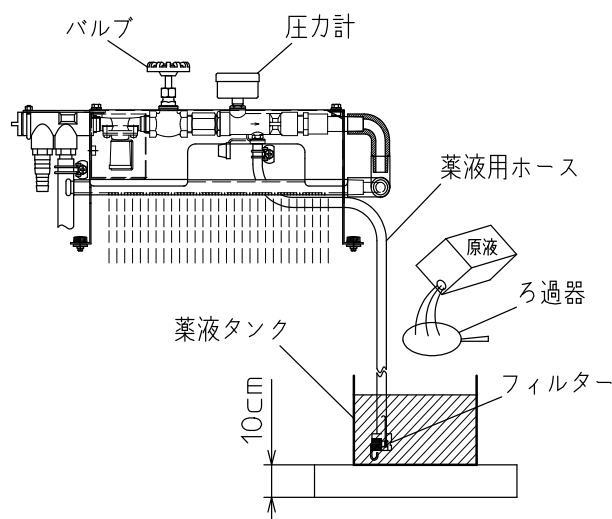
③ 薬剤が沈んでしまわないように
 とときどき攪拌してください。

(注意) 吸込用ビニールホースの
 先端に付いているフィル
 ターが詰まると薬剤吸込
 み量が減少します。とき
 どき確認し、詰まってい
 たら掃除してください。

水和剤を使用するときは、

原液をろ過器に通すと、目詰まりが無く正確な散布ができます。

ダコニール、ダコレートとタチガレンの同時使用または近接処理は薬
 害を生じるおそれがあるので避けてください。



7.11 籾落とし回転ブラシの調節

育苗箱の淵に乗っている種もみを落とすための回
 転ブラシです。お持ちの育苗箱の中で、最も高さ
 のある育苗箱に合わせて調節してください。

育苗箱の上面に軽くかかる程度に高さを調節ボ
 ルトで調節してください。高さ調節ボルトを左に
 回すと回転ブラシが上がります。

出荷時は 38mm の育苗箱の高さにセットされてい
 ます。

(注意) 回転ブラシが低すぎる場合、回転ブラシ
 に育苗箱が引っ掛かってしまう恐れがあ
 ります。



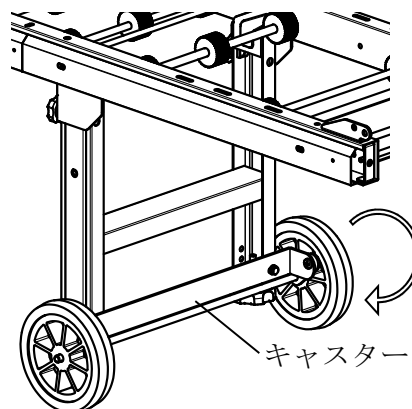
7.12 キャスターの使い方

- (1) キャスターは播種機を移動するときに使用します。播種作業のときは必ず解除してください。
- (2) キャスター側のレール部を持って本機を持ち上げます。キャスターを回転させて、絵のように車輪に本機が乗るようにしてください。
- (3) レール的一端を持って移動してください。



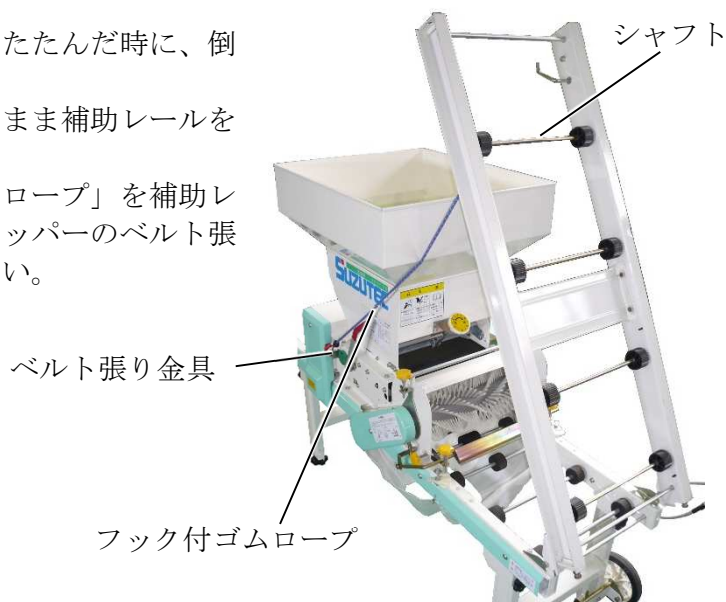
注意

本機の移動及び格納時は、安全上補助レールを取り外してください。



7.13 フック付ゴムロープの取り付け方

- (1) 出口側の補助レールを折りたたんだ時に、倒れないようにする物です。
- (2) 補助ホッパーをセットしたまま補助レールを折りたたんでください。
- (3) 絵のように「フック付ゴムロープ」を補助レールのシャフトと土入れホッパーのベルト張り金具に引っ掛けてください。

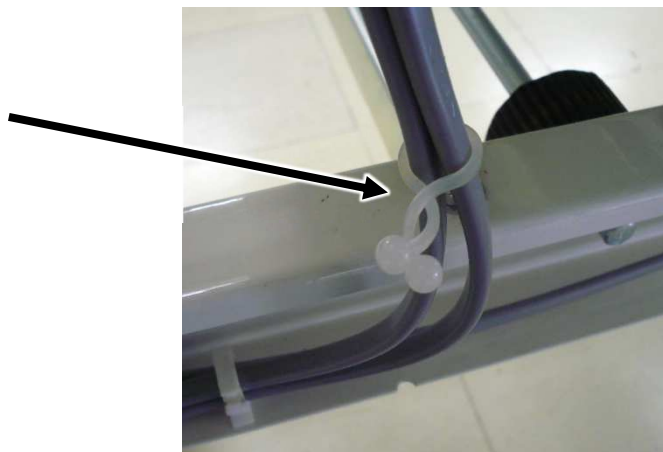


7.14 アイロックの取り付け方

- (1) ケーブルを束ねる結束バンドです。搬送ケーブルや播種ケーブルを束ねるのにご使用ください。
- (2) 輪の所にケーブルを入れ、ボールの所をひねると結束できます。



アイロック

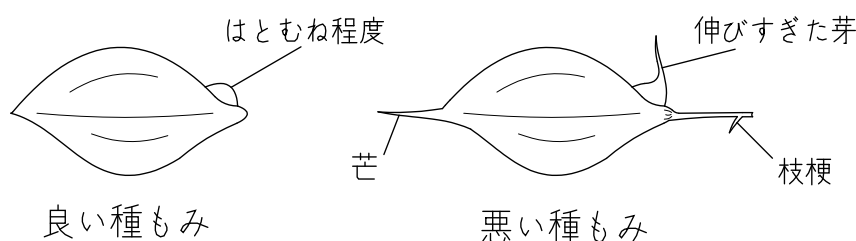


8. 運転及び操作

8.1 運転前の準備

(1) 種もみの処理

- ・ 種もみはゴミや^{ボウ}芒、枝梗を取り除き、育苗方法に従って、塩水選、消毒、浸種、芽出しを行ってください。尚、芒、枝梗は「播種ムラ」の原因になるので特に注意して取り除いてください。
- ・ 種もみは「はとむね」位に芽出しをして、芽が伸びすぎないように注意してください。又、手に付かない程度に陰干しをして、種もみの水分を十分切ってから播種してください。種もみの水切りが完全でなかったり、芽が伸びすぎていると「播種ムラ」の原因になりますので特に注意してください。



(2) 土の処理

- ・ 本製品は灌水から播種までの距離を短く設定しているので、床土は浸透性の良い土をご使用ください。
- ・ 床土に使用する土は「5mm 目」のフルイを通したものを使用し、床土の水分は、片手ではかるく握って開いた時にかたまり、指で触るとすぐ崩れる程度にしてください。
- ・ 水分の多い土は、ブリッジ（土がホッパーから出てこないこと）の原因となるので、特に注意してください。
- ・ 覆土に使用する土は、よく乾燥していて「4mm 目」のフルイを通したものをしようしてください。

(3) 本機の設置

平らな場所を選び、全体が水平になるように脚の高さ調節ボルトで調節してください。

(注意) 設置が悪いと苗箱が片寄り、「播種ムラ」、「灌水ムラ」等の原因になる場合もあるので、特に注意してください。

(4) ホースの接続

灌水装置のホースは接続前に水を出し、ホースの中からゴミやノロなどを排出してください。

(注意) 灌水装置の配管が詰まると既定の水量が出なかったり、または水が全く出なくなってしまう場合があります。

(5) 育苗箱

- ・ 育苗箱はできるだけ同じ種類のもので、「ソリ」、「ネジレ」のない箱を使用してください。
- ・ 育苗箱の種類が同じものでない場合は、箱の高さで選別してください。(箱の高さが異なると本機の再調整が必要です)

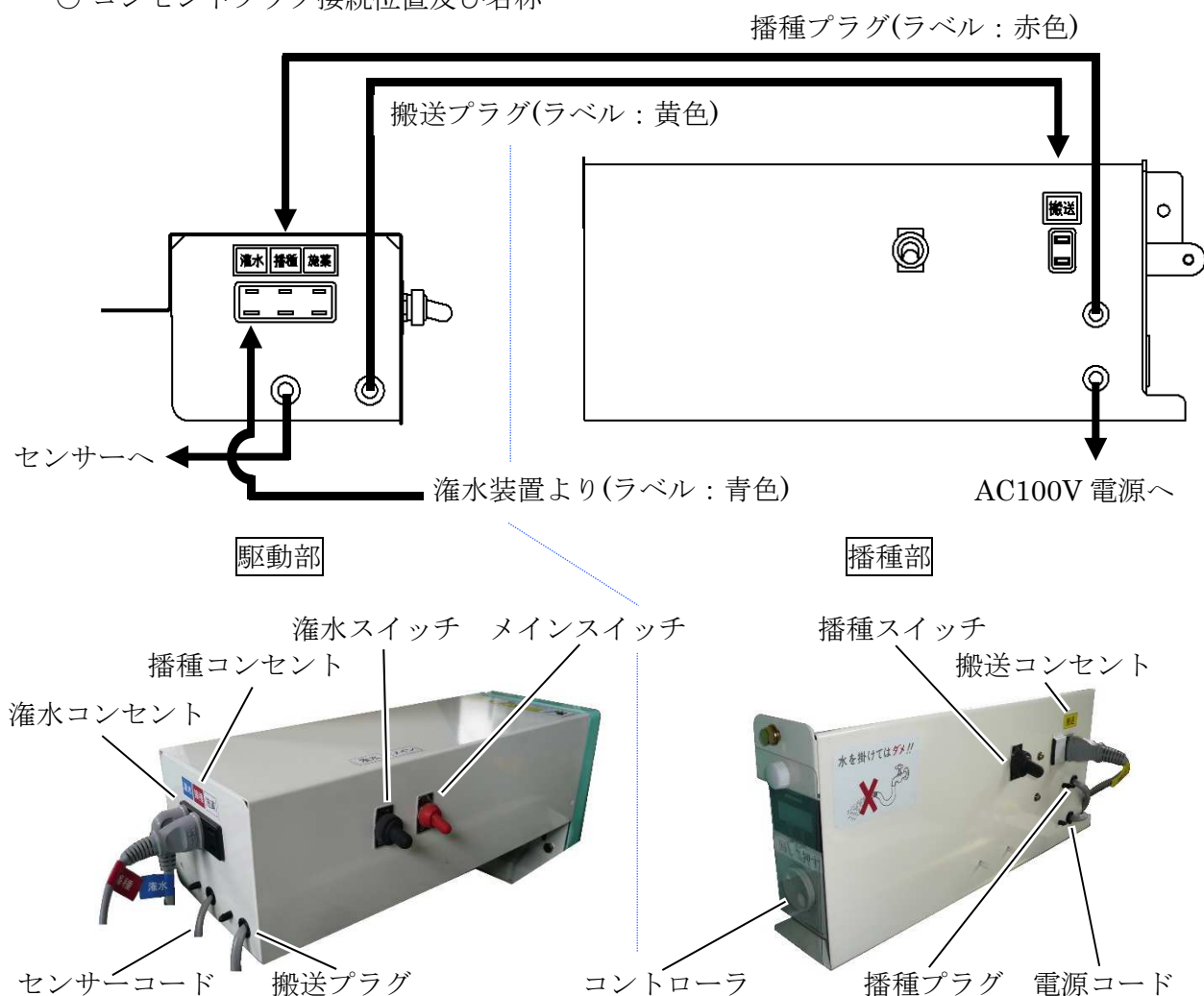
8.2 運転

注) 電源電圧はAC100V±5Vを安定供給してください。
適切な電源でないと、故障や動作不良の原因となります。

○ 各部の操作

- (1) 駆動部から出ている搬送プラグ(ラベル：黄色)を播種部にある搬送コンセント(ラベル：黄色)に接続してあるか確認してください。
- (2) 播種部から出ている播種プラグ(ラベル：赤色)を駆動部にある播種コンセント(ラベル：赤色)に接続してあるか確認してください。
- (3) 各部のスイッチが「OFF」になっているのを確認してから、播種部から出ている5mの電源コードをAC100Vの電源に差し込んでください。
- (4) 「メインスイッチ」を「ON」にしてください。搬送ゴムローラー、回転ブラシが回ります。
- (5) 「灌水スイッチ」を「ON」にしてください。電磁弁が作動し水が流れ、灌水できます。
- (6) 「播種スイッチ」を「ON」にしてください。播種ローラーが回り播種できます。
- (7) 土入れホッパーのレバーを入れてください。土が落ち土入れできます。
- (8) 本機の後尾にある「センサー」を育苗箱が押すと、全てが停止します。育苗箱を取り出すとまた動き出します。
- (9) 「メインスイッチ」を「OFF」にすると、全てが停止します。

○ コンセントプラグ接続位置及び名称



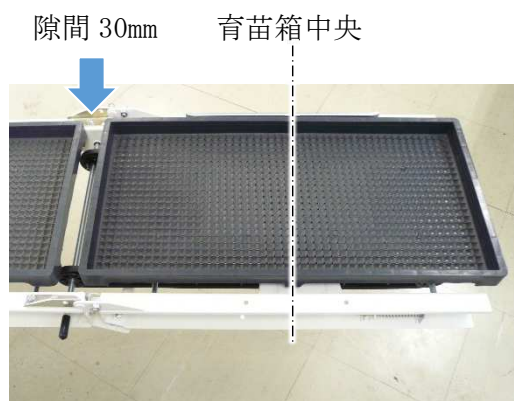
○ 作業方法

- (1) 各部スイッチを「OFF」にし、土入れホッパーに土を溜め、播種ホッパーに種もみを入れてください。
- (2) メインスイッチ、播種スイッチを「ON」にして2,3列播き、播種ローラーの中に種もみを抱え込ませてメインスイッチを「OFF」にしてください。
- (3) 水道の蛇口を開け、灌水装置に水を送り込んでください。
- (4) メインスイッチを「ON」にし、播種機の入口に育苗箱を置いてください。
※先頭の育苗箱の先端は土が少ないので、先頭の育苗箱は先に先端のみ土を入れておくときれいに床土入れできます。
- (5) 育苗箱が作業地点に接近したら、スイッチ・レバーを「ON」にしてください。
- (6) センサーに触れないように育苗箱を取り出して、連続作業してください。
- (7) 休憩する場合や終了時はメインスイッチを「OFF」にしてください。その後、水道の蛇口を閉めてください。

8.3 運転時の注意

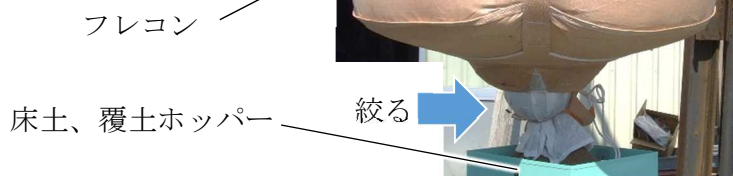
(1) 育苗箱の入れ方

育苗箱を播種機の入口に置いたら、前の育苗箱にくっつけようと後ろから育苗箱を押さないでください。搬送チェーンが緩むため、余計に隙間が開きます。下図の位置に育苗箱を置くと自動で間が詰まります。



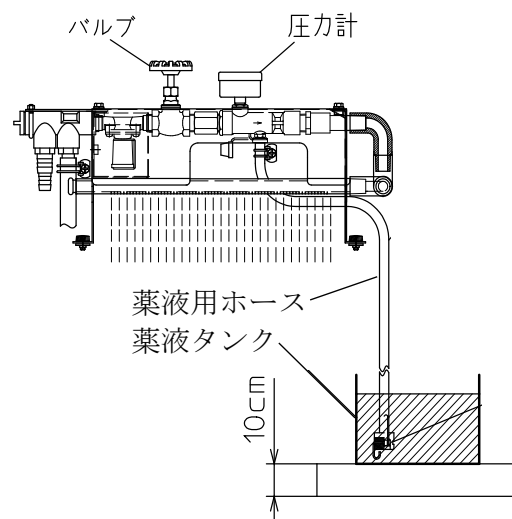
(2) フレコン

フレコン（フレキシブルコンテナバッグ）を土入れホッパー直上に設置して土供給を行う場合は、下部排出口を紐等で絞ってご使用ください。土の荷重がコンベアベルトにかかり過ぎるとスリップを起し、土が繰出されなくなります。



(3) 薬剤灌水

- 薬液タンクは地面から 10cm 位上げないと正確な薬剤吸込量になりません。
- 薬液タンクの水面が灌水装置よりも高いところにあると、本機のスイッチを切っても、消毒液が灌水装置から漏れることがあります。
- 薬液用ホース先端は消毒液にしっかりと漬け、空気を吸い込まないようにしてください。空気を吸い込むと正確な灌水が出来ません。薬液用ホース先端は消毒液にしっかりと漬けるため、消毒液は実際の必要量より多く準備してください。



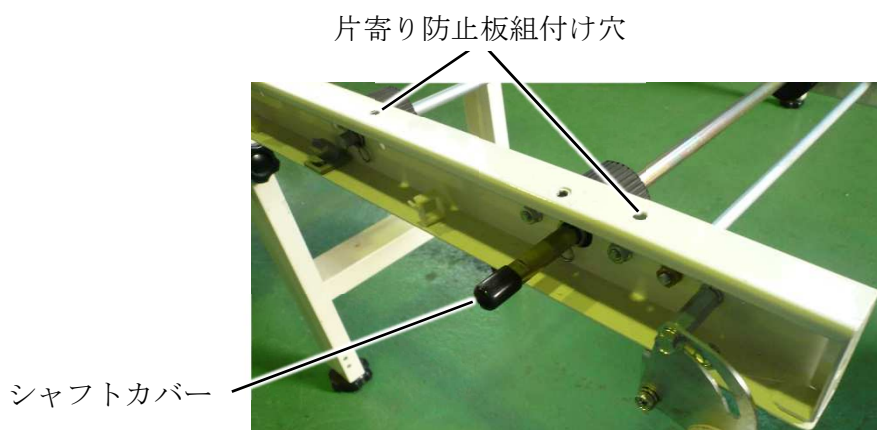
9. 土入れ作業

本製品は、土入れ部と播種部を分離して床土作業ができるようになっております。

9.1 土入れ部と播種部の分離方法

名称は「6.6 播種レールと土入れレールの連結」と「8.2 運転」を参照ください。

- (1) 電源コードをコンセントから抜いてください。
- (2) 駆動部コンセントから播種プラグと灌水プラグを抜いてください。
- (3) 播種部コンセントから搬送プラグを抜いてください。
- (4) 連結部のカバーを外し、テンションを緩め、R ピンを抜き、ローラーチェーンとスプロケットを外してください。
- (5) レールを連結しているバネ平組込六角ボルトと六角ナットを外してください。
- (6) スプロケット(34T)が組付いていたシャフトに、付属のシャフトカバーを被せてください。
- (7) 駆動補助レールに組付いている片寄り防止板を、レールに組付けることが出来ません。育苗箱供給の位置調節にご使用ください。



警告

連結部スプロケットは必ず外し、シャフトにシャフトカバーを被せてください。回転部に巻き込まれるなど、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

9.2 土入れ部単独での運転方法

名称は「8.2 運転」を参照ください。

○ 各部の操作

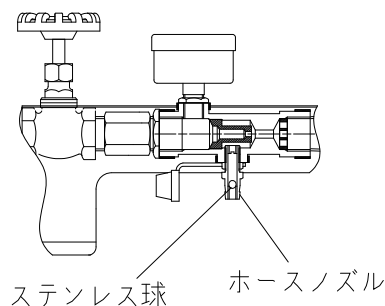
- (1) 各部のスイッチが「OFF」になっているのを確認してから、駆動部から出ている搬送プラグ(ラベル：黄色)を AC100V の電源に差し込んでください。
- (2) 「メインスイッチ」を「ON」にしてください。搬送ゴムローラー、回転ブラシが回ります。
- (3) 土入れホッパーのレバーを入れてください。土が落ち土入れできます。
- (4) 本機の最後尾にある「センサー」を育苗箱が押すと、全てが停止します。育苗箱を取り出すとまた動き出します。
- (5) 「メインスイッチ」を「OFF」にすると、全てが停止します。

10. 点検・整備及び保管上の注意

10.1 手入れ

(1) 灌水装置

- ① 薬液灌水を行ったときは、必ず真水を吸込ませて内部を良く洗浄してください。
- ② 灌水ノズルは付属のノズルブラシで清掃し、きれいな水を勢い良く出してパイプ内をきれいにしてからゴム栓をしてください。
- ③ 冬期凍結しないように水を完全に抜いてください。特に吸込みノズル内の水は抜きもれのないように注意してください。ホースノズル内のステンレス球を下から押し上げれば、水が完全に抜けます。



(2) 残留種もみの排出

- ① 播種部左側カバーを外してください。
- ② ノブボルトを緩め、レバーを矢印の方向に倒してください。播種ホッパー内のシャッターが開き、種もみがモミ受けカゴに落下します。
- ③ ②のまま播種スイッチを入れ、播種ローラーを回してください。播種ホッパー内及びロールガイド内に種もみが残らないようにしてください。



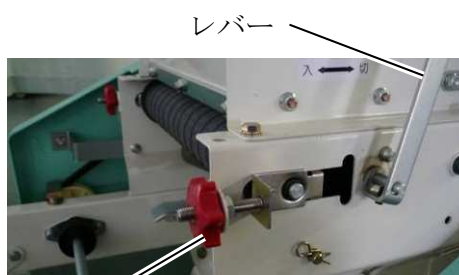
(注意) 長期間種もみがロールガイド内にあるとロールガイドが破損するおそれがあります。

- ③ 種もみの排出が終わりましたら、播種スイッチを切り、レバーを矢印と逆方向に引きながら、ノブボルトで固定してください。

(3) コンベアベルト

コンベアベルトの伸びやくせを防止するため緩めます。

- ① 土入れホッパーのレバーを「切」に入れてください。
- ② 土入れホッパーのノブナットを緩めてください。



ノブナット

(4) 水洗い

- ① 水洗いをする場合は、電源プラグをコンセントから外し、モーター、コントローラ、スイッチ等の電気部品への放水はしないように注意ください。
- ② 播種部の回転ブラシは水洗いしないでください。ひどい汚れにより水洗いをしなければならない場合は、回転ブラシの毛をすいて、外周方向に毛を直させた状態で水切りをして、そのまま乾燥させてください。

(5) 給油

洗浄後、よく乾かしてから、**回転部**（搬送コンベア軸受部、播種ホッパー軸受部、土入れホッパー軸受部）、**ローラーチェーン**（搬送コンベア部、播種ホッパー部）などへ**必ず給油**してください。

10.2 保管上の注意

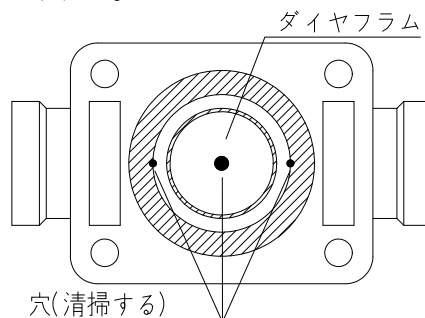
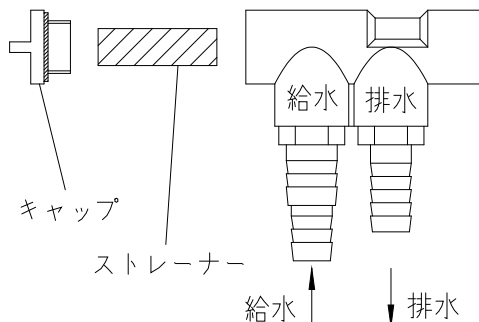
- (1) 本機は直射日光を避けたところに保管してください。
- (2) 雨を避け、平坦なところに保管してください。

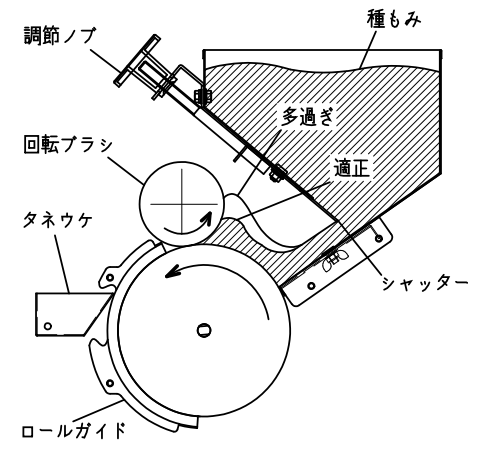
11. 故障の診断と処置

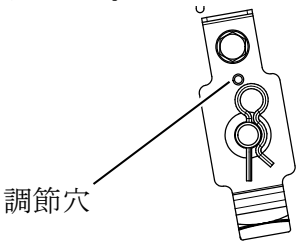
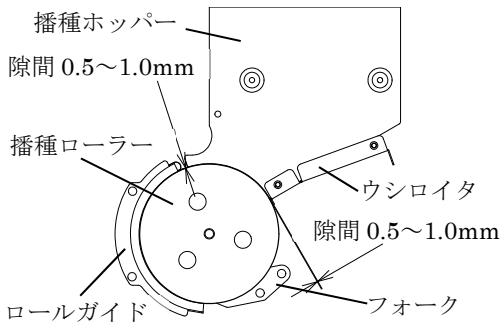
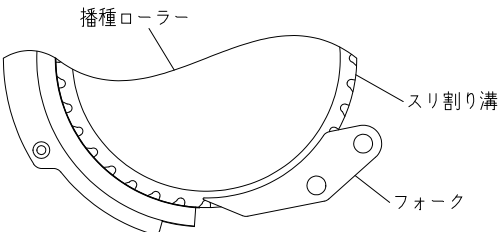
使用中、下表の様なトラブルが発生した場合は表に基づいて適切な処置をしてください。

- はじめにメインスイッチ「ON」になっていて、センサーコネクタが接続されているか確認してください。補助レールのセンサーの上には育苗箱がある場合は取り除いてください。

現象	原因	処置
水の出が悪い・水が出ない	(1) メイン、灌水の各スイッチが「ON」になっていない。	・メインスイッチを「ON」にしてから灌水スイッチを「ON」にする。
	(2) 水道の蛇口が開かれていないか、水道ホースが曲がっている。	・水道の蛇口を開き水道ホースの曲がりを直す。
	(3) 灌水ノズルが詰まっている。	・同梱のノズルブラシで掃除をする。 ノズルの穴を針などで掃除をする。
	(4) 減圧弁内のストレーナーが目詰まり。	・キャップを外し、中にあるストレーナーを清掃する。
	(5) ウォーターバルブが目詰まり。 ① フィルターの目詰まり。 ② ダイヤフラムの目詰まり。	A. 減圧弁を外し、フィルター(金網)を引き出し、清掃する。 B. 「A」の処置をして、メイン・灌水スイッチを「ON」にしたとき、ウォーターバルブは「ピー」と音がするのに水が出ない場合は、ウォーターバルブを分解してダイヤフラムの3つの穴(矢印部)を清掃する。



現象	原因	処置
ノズルの 空気が入る	薬液吸込口のホースノズルにキャップがされていない。	キャップをする、また割れている物は新品と交換する。
薬液が 吸込まない	- 薬液タンクが低い位置にあり吸い上げることが出来ない。 - 吸込み用ホースノズル内部のステンレスボールが薬剤等で密着している。	- 薬液タンクを地上より 10cm 位上げる。「8.3 (3)」を参照ください。 - 針金、クギ等でホースノズルの下より突き上げて、ステンレスボールが軽く動く事を確認する。
播種 が動かない	- 電源プラグの差し忘れ。 『表示部の消灯』 - メインスイッチが「ON」になっていない。 - 配線の接続が適切でない。 - センサーの動きが渋くセンサーが利き続けている。	- AC100V に接続する。 (電源電圧の許容範囲は 100V ± 5V) - スイッチを「ON」にする。 「6.5 センサーコネクタの接続」と「8.2 運転」の「コンセントプラグ接続位置及び名称」を参照ください。 - センサーアームに給油し、軽く動く様に調節してください。
播種ムラになる	- ブラシの手前に種もみがない。 - 種もみの処理が適切でない。 - 種もみの水切りが不十分な為、播種ローラーの溝から落ちないで共回りしてしまう。	- ホッパー内のシャッターを開く。  「8.1 (1)」を参照ください。 - 水分を十分に切る。 脱水機を利用する場合は、最低 3 分は運転してください。
育苗箱の中央が 厚まきになる	回転ブラシの中央部が細くなる為。 (毛の絡みあい)	- 種もみの水切りを十分に行う。 - 回転ブラシの中央部に、ドライバー等を差し込んで、絡まった毛を解いてください。 - 回転ブラシの交換をお勧めします。

現象	原因	処置
苗箱の左又は右側が厚まきになる	(1) 回転ブラシの左右の平行が出ていない。播種機の左右のレベルが出ていない。 (2) 回転ブラシにより跳ね飛ばされた種もみが低い方に溜まる。	・ ブラシアームの調節穴が2重丸になるように、回転ブラシの左右の平行を出してください。  調節穴 ・ 播種機の左右が平行になる様に、レベルを出してください。
播種ローラーの動きが悪い(動かない)	(1) ロールガイドと播種ローラーの間に残量種もみが有り、ロールガイドに食い込んでいる。 (2) 播種ホッパー、ウシロイタが、播種ローラーに接触している。又、スキマが大きい為種もみが挟まってしまう。 (注意)そのままの状態で使用すると播種ローラーが磨耗します。 (3) フォークと播種ローラーのスリ割り溝部に、種もみのカス等が溜まり回転が重くなる。	・ ロールガイドを取外し両方とも清掃する。 ・ ロールガイドが破損している場合は交換する。 ・ サイドカバーを外しサイドフレームの覗き穴からスキマを確認しながら調整する。尚、スキマは0.5～1.0 mmになるように調整してください。  播種ホッパー 隙間 0.5～1.0mm 播種ローラー ウシロイタ 隙間 0.5～1.0mm ロールガイド フォーク ・ フォークを取り外し、フォークに付着しているカス、ゴミ等を取り除く。 ・ 播種ローラーのスリ割り部をカッターの刃等で、カス、ゴミ等を除去する。  播種ローラー スリ割り溝 フォーク

現象	原因	処置
播種量が調節できない	(1) 播種量表示部に数字以外が表示されている。 (2) 残留種もみ排出のシャッターが開いている。	・コントローラエラーの可能性あります。コンセントから電源プラグを抜いて、表示部が消えたら電源プラグを挿してください。 ・「11.1、11.2」を参照し原因を取り除いてください。 ・「10.1 (2)」を参考にレバーを動かし、シャッターを閉めてください。
土が安定して繰出されない	・コンベアベルトが緩んでいる。	・「7.3 コンベアベルトの張り」を参照し、コンベアベルトを張ってください。
に 糞 落 し ・ 覆 土 回 転 ブ ラ シ 育 苗 箱 が 引 っ 掛 かる	・育苗箱の高さに対して回転ブラシの高さの調節位置が低い為。	・回転ブラシの高さを上げる。

12. 播種モーターの異常とその対策

オリエンタルモーター(株)製 NexBL ブラシレスモーターユニット BMU シリーズ 取扱説明書より抜粋 (版番号: HM-5138-4)

12.1 アラームとワーニング

ドライバには、温度上昇、接続不良、運転操作の誤りなどからドライバを保護するアラーム(保護機能)と、アラームが発生する前に警告を出力するワーニング(警告機能)が備わっています。

① アラーム

保護機能がはたらいてアラームが発生すると、モーターは自然停止し、モーター出力軸はフリーになります。同時にアラームコードが表示されます。アラームコードでアラームの種類を確認できます。

- 重要**
- 過電流とEEPROM異常のアラームは、電源を再投入して解除します。電源の再投入は、電源遮断後 1 分以上経過してから行なってください。電源を再投入しても正常に動作しないときは、内部回路が破損しているおそれがあります。最寄りの支店・営業所にご連絡ください。
 - 外部停止(AL6E)のときは瞬時停止します。停止後、モーター出力軸はフリーになります。

■ アラーム一覧

アラームコード	アラーム名称	原因	処置	アラームリセット*1
AL20	過電流	地絡などによって、過大な電流がドライバに流れた。	ドライバとモーターの配線に破損がないか確認してください。	無効
AL21	主回路過熱	ドライバの内部温度がアラームの検出温度を超えた。	・周囲温度を見直してください。 ・筐体内の換気条件を見直してください。	有効
AL22	過電圧	・電源電圧が定格の約 120%を超えた。 ・巻下げ負荷運転を行なった、または許容負荷慣性を超える負荷を駆動した。	・電源電圧を確認してください。 ・運転時に発生するときは、負荷を軽くするか、加減速時間を長くしてください。	
AL25	不足電圧	電源電圧が定格の約 60%以下になった。	・電源電圧を確認してください。 ・電源ケーブルの配線を確認してください。	
AL28	センサ異常	運転中にモーターのセンサ信号線が断線した、またはモーター信号用コネクタが外れた。	ドライバとモーターの接続を確認してください。	
AL30	過負荷	・連続運転領域を超える負荷が、「軸拘束時は除く過負荷アラーム検出時間」パラメータに設定した時間以上、モーターに加わった。*2 ・モーターの温度が低い状態で起動した。	・負荷を軽くしてください。 ・加減速時間などの運転条件を見直してください。	
AL31	過速度	モーター出力軸の回転速度が約 4800 r/minを超えた。		
AL41	EEPROM異常	・保存データが破損した。 ・データの書き込みや読み出しができなくなった。	パラメータを初期化してください。	無効
AL42	初期時センサ異常	電源を投入する前に、モーターのセンサ信号線が断線した、またはモーター信号用コネクタが外れた。	ドライバとモーターの接続を確認してください。	有効
AL46	初期時運転禁止*3	「外部運転信号入力」パラメータが無効の場合、運転スイッチが RUN側のときに、電源を再投入した。 「外部運転信号入力」パラメータが有効の場合、FWD入力または REV入力が ONで運転スイッチが RUN側のときに、電源を再投入した。	運転スイッチを RUN側から STAND-BY側にしてください。 ・運転スイッチを RUN側から STAND-BY側にしてください。 ・FWD入力または REV入力を ONから OFFにしてください。	
AL6E	外部停止*4	EXT-ERROR入力が OFFになった。	EXT-ERROR入力を確認してください。	

*1 モニタモードのアラームリセット、または ALARM-RESETを入力端子に割り付けてアラームを解除する場合。

*2 短時間運転領域を超える負荷で運転したときは、「軸拘束時は除く過負荷アラーム検出時間」パラメータの設定値以内でも、アラームが発生する場合があります。

*3 「初期時運転禁止アラーム」パラメータが有効のときに発生します。

*4 EXT-ERRORを入力端子に割り付けたとき。

■ アラームの解除

必ずアラームが発生した原因を取り除き、運転信号を OFF にして安全を確保してからアラームを解除してください。

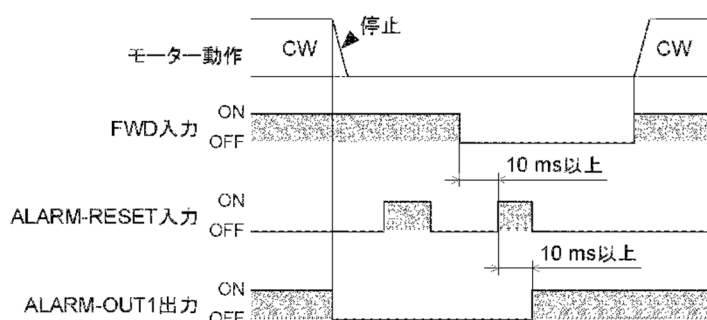
〔アラームの解除方法〕

- ALARM-RESET 入力を ON から OFF にする。(OFF エッジで有効です。)
 - モニタモードでアラームリセットを実行する。
 - 電源を切り、1 分以上経過してから電源を再投入する。
- アラームを解除すると、「AL00」が 2 秒表示された後に、「0」が表示されます。

- 重要**
- 電源を再投入しても正常に動作しないときは、内部回路が破損しているおそれがあります。最寄りの支店・営業所にご連絡ください。
 - アラームの原因を取り除かずには運転を続けると、装置が故障するおそれがあります。

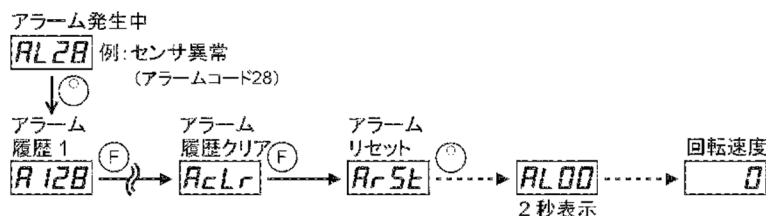
● ALARM-RESET 入力で解除する場合

運転信号を OFF にし、ALARM-RESET 入力をワンショット入力 (10 ms 以上) してください。運転信号が ON になっているときは、ALARM-RESET 入力を受け付けません。図は、運転信号が FWD 入力の場合を示しています。



● モニタモードで解除する場合

運転スイッチを RUN 側から STAND-BY 側にし、下記手順で実行してください。



② ワーニング

ワーニングが発生すると、ワーニングコードが表示されます。ワーニングコードでワーニングの種類を確認できます。

■ ワーニング一覧

ワーニングコード	ワーニング名称	モーターの動作	発生条件	処置
U021	主回路過熱	運転継続	ドライバの内部温度がワーニングの検出温度を超えた。	• 周囲温度を見直してください。 • 筐体内の換気条件を見直してください。
U030	過負荷		「過負荷ワーニングレベル」パラメータを超える負荷がモーターに加わった。	負荷条件を確認してください。
U05c	運転禁止	停止	入力端子が ON のときに、「入力機能選択」パラメータで運転信号を割り付けた。	運転信号を割り付けるときは、割り付先の入力端子が OFF になっていることを確認してください。

■ ワーニング履歴

発生したワーニングは、最新のものから順に 9 個まで RAM に保存されます。履歴を消去するには、モニタモードのワーニング履歴クリアを実行してください。

- 重要**
- ドライバの電源を切ると、ワーニング履歴は消去されます。

12.2 点検、故障の診断と処置

① 点検

モーターの運転後は、定期的に次の項目を点検することをお勧めします。異常があるときは使用を中止し、お客様ご相談センターにご連絡ください。

- 重要**
- 絶縁抵抗測定、絶縁耐圧試験は、モーターとドライバそれぞれで行ってください。モーターとドライバを接続した状態で、絶縁抵抗測定、絶縁耐圧試験を行なうと、製品が破損するおそれがあります。
 - ドライバには半導体素子が使われているため、取り扱いに注意してください。静電気などによってドライバが破損するおそれがあります。

■ 点検項目

- モーター・ギヤヘッドの取付ねじに緩みがないか。
- モーターの軸受部(ボールベアリング)から異常な音が発生していないか。
- ギヤヘッドの軸受部(ボールベアリング)やギヤの噛み合い部から異常な音が発生していないか。
- モーター・ギヤヘッドの出力軸と負荷軸に心ズレが出ていないか。
- ケーブルに傷やストレスがないか、ドライバとの接続部に緩みがないか。
- ドライバの開口部が目詰まりしていないか。
- ドライバの取付ねじや、主電源入力部に緩みがないか。
- ドライバ内部に異常や異臭がないか。

② 故障の診断と処置

速度の設定や接続を誤ると、モーター、ドライバが正常に動作しないことがあります。

モーターが正常に運転できないときはこの章をご覧になり、適切に対処してください。それでも正常に運転できないときは、最寄りのお客様ご相談センターにご連絡ください。

現象	予想される原因	処置
モーターが回転しない。	電源が正しく接続されていない。	電源の接続を確認してください。
	運転スイッチが STAND-BY 側になっている。	運転スイッチを RUN 側にしてください。
	「外部運転信号入力」パラメータが無効のとき、FWD 入力または REV 入力 が ON になっている。	入力されている運転信号を OFF にしてから、「外部運転信号入力」パラメータを有効に設定してください。
	FWD 入力と REV 入力の両方が OFF になっている。	どちらか片方を ON にしてください。
	FWD 入力と REV 入力の両方が ON になっている。	
指定した方向とは逆へ回転する。	アラームが発生している。	保護機能がはたらいてアラームが発生しています。29 ページをご覧ください。原因を取り除いてからアラームを解除してください。
	FWD 入力と REV 入力の接続を間違えている、または正しく接続されていない。	FWD 入力と REV 入力の接続を確認してください。
	コンビタイプ平行軸ギヤヘッドで、減速比が 30、50、および 100 のギヤを使用している。	これらのギヤは、ギヤヘッド出力軸とモーター出力軸の回転方向が逆になります。FWD 入力と REV 入力の操作を逆にしてください。
ダイヤルでの設定ができない。	回転方向スイッチの設定を間違えている。	回転方向スイッチの設定を確認してください。
	ロック機能が有効になっている。	ロック機能を解除してください。
回転速度が上がらない。	速度上限が設定されている。	速度上限を 4000 r/min に設定してください。
回転速度が下がらない。	速度下限が設定されている。	速度下限を 0 r/min に設定してください。
●モーターの動作が安定しない。 ●振動が大きい。	モーター(ギヤヘッド)出力軸と負荷軸に心ズレが出ている。	モーター(ギヤヘッド)出力軸と負荷軸の結合状態を確認してください。
	ノイズの影響を受けている。	モーター、ドライバ、および運転に必要な外部機器だけで運転を確認してください。ノイズの影響が確認できたときは、次の対策を施してください。 ・ノイズ発生源から隔離する。 ・配線を見直す。 ・信号ケーブルをシールドケーブルに変える。 ・フェライトコアを装着する。

- 重要**
- アラームが発生しているときは、アラームの内容を確認してください。
 - モニタモードで入出力信号をモニタできます。入出力信号の配線状態の確認などにご利用ください。

13. 簡易目安表

<500 箱/時>

● 播種量

1 合 = 180 mℓ ÷ 120g(催芽)

表示値	12.00	14.00	16.00	18.00	20.00	30.00	32.00	34.00	36.00
催芽 (g)	140	165	185	205	225	315	335	350	370
催芽 (mℓ)	210	250	280	305	335	475	500	525	555

● 灌水量

目盛り (MPa)	0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.1	0.12
真水 (mℓ/箱)	607	734	853	1045	1183	1253	1321
薬剤 (mℓ/箱)	636	758	880	1079	1246	1402	1519

● 必要消毒液量

目盛り (MPa)	0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.1	0.12
100 箱 (ℓ)	6.5	9.0	10.8	14.2	16.7	19.1	22.5
300 箱 (ℓ)	19.5	27.0	32.4	42.6	50.1	57.3	67.5
500 箱 (ℓ)	32.5	45.0	54.0	71.0	83.5	95.5	112.5

● 必要薬剤量

1mℓ = 1g

希釈倍率	500 倍	800 倍	1000 倍
100 箱 (mℓ)	100	62.5	50
300 箱 (mℓ)	300	187.5	150
500 箱 (mℓ)	500	312.5	250

<420 箱/時>

● 播種量

1 合 = 180 mℓ ÷ 120g(催芽)

表示値	10.00	12.00	14.00	16.00	18.00	24.00	26.00	28.00	30.00
催芽 (g)	140	165	195	215	240	305	330	350	370
催芽 (mℓ)	210	250	295	320	360	460	495	525	555

● 灌水量

目盛り (MPa)	0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.1	0.12
真水 (mℓ/箱)	716	866	1006	1233	1396	1479	1559
薬剤 (mℓ/箱)	750	894	1039	1273	1470	1654	1792

● 必要消毒液量

目盛り (MPa)	0.02	0.03	0.04	0.06	0.08	0.1	0.12
100 箱 (ℓ)	7.7	10.6	12.7	16.7	19.7	22.5	26.5
300 箱 (ℓ)	23.1	31.8	38.1	50.1	59.1	67.5	79.5
500 箱 (ℓ)	38.5	53.0	63.5	83.5	98.5	112.5	132.5

● 必要薬剤量

1mℓ = 1g

希釈倍率	500 倍	800 倍	1000 倍
100 箱 (mℓ)	100	62.5	50
300 箱 (mℓ)	300	187.5	150
500 箱 (mℓ)	500	312.5	250

実り豊かな明日をひらく

株式会社 スズテック

〒321-0905 宇都宮市平出工業団地 44-3

代表／TEL. 028 (664) 1111 FAX. 028 (662) 5592

URL. <http://www.suzutec.co.jp>

20045-41471-1710